

海況情報迅速化システム開発試験事業（抄録）

森脇晋平・村山達朗

1 事業の目的

漁業資源の合理的利用と漁業生産の効率化を図るためには正確な海況情報が必要である。日本海における海況は対馬暖流に強く支配されているが、対馬暖流は黒潮などに比べ流勢が弱く、時空間的な変動が激しいため、従来の観測体制ではその姿を十分とらえることが困難であった。海況情報を迅速に収集するためには日本海の海洋特性を考慮した新しい海況情報収集体制ならびにそれを支援する情報収集システムの構築が必要となっている。

このため、平成5年度に引き続き日本海のより迅速かつ詳細な海況情報を得るための収集システムを開発することを目的として必要な基礎調査とシステム検討を行った。

なお、詳細は「平成6年度海況情報収集迅速システム開発試験事業報告書」（漁業情報サービスセンター）に報告されているのでここでは調査の概要について述べる。

2 調査の概要

試験船島根丸（142トン）を用い、4、5、10、11および3月の沿岸定線観測ならびに6、9月のスルメイカ漁場一斉調査時にADCP（古野電気 CI30）を用いて、水深10m層、50m層および100m層の流向・流速を1分間隔で測定した。さらに、サンウェスト・テクノロジー社製SW1000-115については、作動テストとアンデラー流速計との比較試験を行った。

3 観測調査

定線名 その他	月別調査回数													調査方法 その他	
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計		
ニ-1	1	1					1	1					1	5	流向・流速 古野電気 CI-30 水温・塩分 アレック電子 16ビットSTD
す-6			1			1								2	
R線					1									1	
作動試験	1		1			1	1							4	

4 調査結果の利用

漁海況速報の参考資料として利用

5 問題点その他

- サンウェスト・テクノロジー社製SW1000-115が作動不良のため、解析ソフトの開発に着手できていない。。現状は、古野電気CI-30のデータを生データで作図しているだけである。
- サンウェスト・テクノロジー社製SW1000-115は、H6年12月にSW2000に交換した。
- 上述の問題とも関係するが、本事業で採用されている真速流速に変換かするソフト開発作業については全くの白紙状態である。